

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの開催

保健福祉学部看護学科 黒田 寿美恵

1. ティーチング・ポートフォリオとは

ティーチング・ポートフォリオ（以下、TP）とは、自らの教育活動を振り返って8ページから10ページ程度の本文を書いたものと、本文に書いた内容を裏づける資料（エビデンス）で構成される教育業績についての記録である。

ティーチング・ポートフォリオには次の5つの要素を必ず含めることになっている。

- 責務（何を行っているか）
- 理念（どのような考えに基づいて行っているか）
- 方法（その考えをどうやって実現しているか）
- 成果（その方法を行った結果、どうだったか）
- 目標（今後どうするか）

本文の作成においては、まず、教育の責務を明確にする。これは、自分が行っている教育活動の中で、TPで書くのはどの範囲までにするかを定めることである。すなわち、学士課程教育のみについて書くのか、大学院教育までを含めるのか、授業以外の活動であるチューターとしての学生指導や進路指導、サークル活動における指導の範囲まで含めるのか、また管理職の場合は直接学生を指導すること以外の教育活動についても含めるのか、場合によっては大学外で行っている専門職教育までを含めるのか、などがある。その後、自分がそれらの教育活動をどのような教育理念に基づいて行っているのか、つまり「どのような考えやどのような哲学に基づいて教育を行っているか」を明らかにしていく。「方法」では、その理念を実際にどのような方法で具現化しているかについて記述していく。さらに、その方法を実行した結果として得られた成果をまとめる。最後に、改善したい点や長期的な展望などを目標として定める。

次にTPを作成する意義について述べる。TPを書く際は自己省察、すなわち、自分の教育についてしっかりと時間をかけて振り返るという作業が求められる。これにより、自分の教育理念に基づいた教育改善ができ、また、自分自身が教員として成長できる。若手の教員が作成することは、教育者としての自覚が芽生えたり、教育観が確立したりすることにつながる。経験豊富なベテラン教員が作成することは、TPそのものが同じ分野の若手教員たちへの道しるべを示すことになったり、大学のその分野の教育のあり様を示すことになったりして、大学の財産となり得る。また、TPの作成においては、メンターと呼ばれる作成過程をサポートする教員との対話が欠かせないが、対話をする中で、作成する者にとってもそれをサポートするメンターにとっても専門分野の違う学部や学科の教育内容が理解できたり、また違う学部や学科の教員に対する理解が深まることになる。

2. ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの開催

TPはワークショップに参加しなくても作成することが可能である。しかし、ワークショップに参加して作成することによる効果は大きいといえる。効果のひとつは、メンターとのメンタリングにより自己省察が深まることや、作成作業中の作成者同士の交流において教育活動の振り返りが深まることである。もうひとつは、作成作業中に参加者同士で交流をするなかで、参加者相互によりネットワークを築くことができ、教育活動への意欲を新たにすることができることである。

このような利点を鑑みて、保健福祉学部では、県立広島大学としては初開催となるティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップを平成26年度に開催した。なお、本TP作成ワークショップは、ティーチング・ポートフォリオ・ネットのTP作成ワークショップモデルスケジュール(<http://www.teaching-portfolio-net.jp/howto/>)に準拠して、次のとおり実施した。

日時：平成26年9月20日（土）～22日（月）

メンティ：6名（保健福祉学部教員5名、生命環境学部教員1名）

メンター：4名（保健福祉学部教員2名、大阪府立大学工業高等専門学校教員2名）

スーパーバイザー：2名（大阪府立大学工業高等専門学校教員、メンターを兼務）

メンティとは、TPを作成する者のことである。メンターは、メンティがTPを作成する過程において時間管理やTPの構成についてのチェックをし、またメンティが自身の教育理念を見つめるプロセスを支援する役割を担う。メンターはやむを得ない場合を除き、メンティの専門領域外の者が担当する。その理由としては、専門家同士だと説明しなくても用語が通じたり、事情について暗黙の了解で分かっていたりするため、肝心な部分を言葉にすることなく済ませてしまう可能性があるが、専門外の人に理解してもらおうとすると、より自分の考えを整理しながら語る必要があるため、話をしながら自己省察が深まることが挙げられる。また、専門外の者からは、同じ専門分野の者同士で話していた時には得られなかった新たな視点で意見をもらえる可能性があるため、新たな気づきが得られることもある。さらに、専門家同士で話をしていると、学問領域の細かい議論に陥る可能性があるが、専門外の者との対話では、それを避けることができる。スーパーバイザーは、参加する全メンティの状態を見ながら、メンターのアドバイスが適切かどうかを監視し、メンターがどのようにアドバイスすればよいかを相談できる役割を担う。

図1は、TP作成ワークショップにおけるメンティのスケジュールである。ただし、メンティにはワークショップの開催10日前までにスタートアップシートを提出することが義務付けられた。スタートアップシートを書く目的は、自身の教育活動の整理およびエビデンスの収集と簡単な振り返りを行うことである。また、スタートアップシートには、ワークショップの3日間でできる限りTPを完成させるために意識をTPの作成に向けること、およびTPのエビデンスとして使えるような資料がどの程度揃っているのかということ、メンティとメンターの双方が把握しておくという意味合いがある。

ワークショップの1日目は午後から開始され、オリエンテーションの後、ミニワークを行った。ミニワークでは、図2のようなA3版のミニワークシートを完成させる。内容は全て付箋に書いて貼りつけていく。まず、左端の「教育活動」の欄を埋めるために、自分の教育活動について、担当科目や担当している委員・係などを全て付箋に書いて貼っていく。

	9月20日(土)	9月21日(日)	9月22日(月)
8:00AM			
9:00			
10:00		TP作成作業(4316)	TP作成作業(4316)
11:00		個人メンタリング	個人メンタリング
12:00		TP作成作業(4316)	TP作成作業(4316)
1:00PM		意見交換+昼食(4317)	昼食(4317)
2:00	オリエンテーション(4316)	TP作成作業(4316)	To be a good mentor(4317)
3:00	ミニワーク(4316)		TP作成作業&プレゼン準備(4316)
4:00	個人メンタリング		TPプレゼンテーション(4316)
5:00	TP作成作業(4316)	個人メンタリング	修了式(4316)
6:00		TP作成作業(4316)	後片付け・移動
7:00			修了を祝う会(任意参加)
8:00	夕食:意見交換会(任意参加)		
9:00			
10:00			
11:00	原稿提出締切 23:00	原稿提出締切 23:00	
0:00AM			

図1 TP作成ワークショップ メンティ用スケジュール

その後、(A)の「どのように」の欄に、それらの教育活動をどのように行っているか、例に示すような「小テストを毎回している、授業の冒頭に前回の復習を行う」などの内容を書いて貼っていき、グループ分けをする。(B)の「なぜ」には、(A)で分類したグループごとになぜそのような方法でその教育を行っているのか、理由を書いていき、(C)の「どうだった」では、(A)のような教育活動を行った結果どうであったかについて書いて貼っていく。

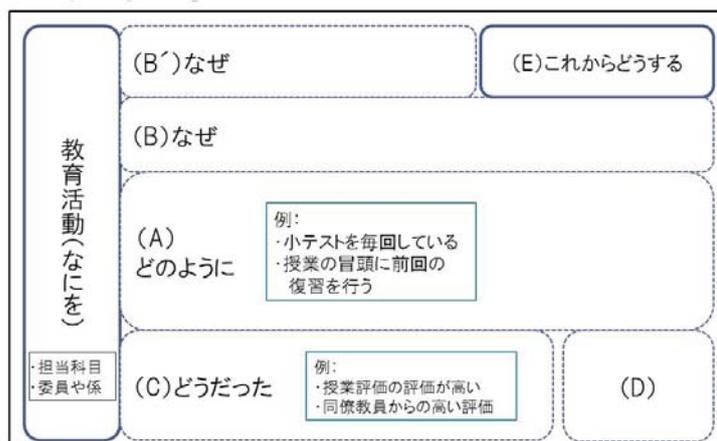


図2 ミニワークシート

ミニワーク終了後は、メンターによるメンタリングを4回実施しながらTPを作成していった。TPは先述した5つの要素「責務(何を行っているか)」「理念(どのような考えに基づいて行っているか)」「方法(その考えをどうやって実現しているか)」「成果(その方法を行った結果、どうだったか)」「目標(今後どうするか)」に沿って作成していくものであるが、1日目と2日目の夜中に、第1稿、第2稿のメンターへの提出があり、最終的に完成したTPの文書、つまり最終稿は、ワークショップの1週間後に提出することにした。

最終日である3日目は、午後からTo be a good mentorというグループワークを行った(写真1)。TP作成者は次回よりメンターを担うことができるため、メンターにはどのような資質が必要かという視点でラベルワークをした。その後は、TPの内容を1枚のパワーポイントや1ページの文書にまとめたものを使って全体でプレゼンテーションをし(写真2)、修了式を行って終了となった。



写真 1 To be a good mentor の様子

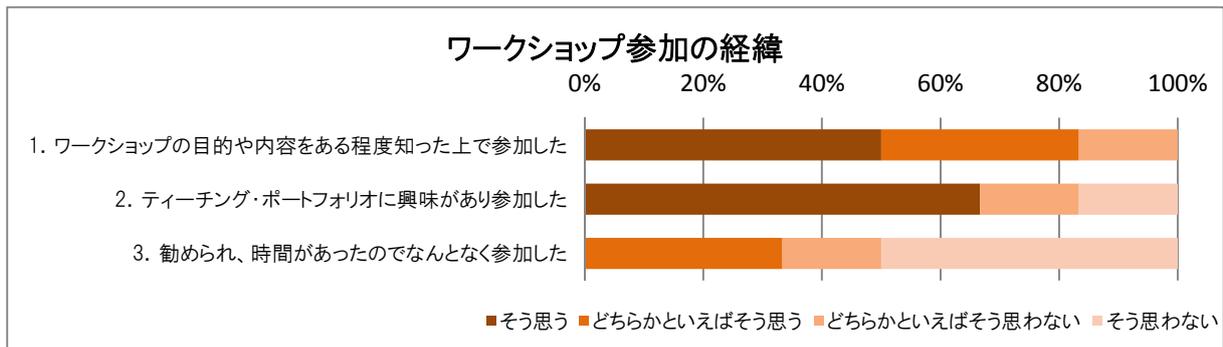


写真 2 プレゼンテーションの様子

3. 評価

メンティのアンケート結果を示す。ワークショップ参加の経緯は、必ずしも主体的とは限らなかったが、参加後には肯定的な評価が得られた。

1) ワークショップ参加の経緯



2) TP を作成した感想

- ・自分の中にあるアイデアや経験がどんどんつながる感じがして、とても充実した時間だった。
- ・作成は大変だったが、自分を見つめ直すことができ、これからの希望や、純粹に人を指導することはどういうことなのか、大学教育とは何かなどをたくさん考えることができた。
- ・今まで必要と行って行ってきた授業の工夫が、どのような教育理念に基づいて行っていたのかが明確になった。
- ・文章にし、何度も推敲することによって、新たな思いや意外な発見があったりして、新たな改善点を見つけることもできた。

3) ワークショップに参加してよかった点

- ・短い期間で職場を離れて作成したので、集中して作成することができ、深い心の中の思いを見ることができた。
- ・日頃あまり会話する機会が少ない先生方とお話する機会ができ、先生方のご経験などを伺わせ

て頂くのは、今後の自分の財産となった。

- ・自分の教育に対する考え方を存分に語る機会を持つことができ、メンタリングを通じて、自分の中の考えの断片をつなぎ合わせ、整理することができた。

4. 継続に向けて

TP 作成者は次回よりメンターの役割を担うことが可能となる。現時点では、26 年度にメンターを経験した者が 2 名、26 年度の TP 作成者が 7 名(他大学開催のワークショップ参加者 1 名を含む)であることから、平成 27 年度のメンター可能者は 9 名である。TP 作成ワークショップの開催を継続していくことで、今後メンター可能者が徐々に増えていく。また、メンター経験を重ねることでスーパーバイザーを担うことが可能になるため、将来的には学内教員のみで作成ワークショップを開催することが可能となる。

平成 26 年度ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ運営メンバー

看護学科	黒田寿美恵
コミュニケーション障害学科	今泉敏
作業療法学科	吉川ひろみ
看護学科	山中道代
人間福祉学科	松宮透高
コミュニケーション障害学科	堀江真由美
理学療法学科	梅井凡子

【参考文献】

- 1) 大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会編著. 実践 ティーチング・ポートフォリオ スターターブック. NTS, 2011
- 2) ティーチング・ポートフォリオ・ネット<<http://www.teaching-portfolio-net.jp/>>